言葉をふやし、意欲的に生活や学習に取り組む態度を育てる

臼　田　季微子

〝意欲的に学習や生活に取り組む子〟を目ざして，昨年度A子を対象として取り組んだ。ある程度の衣服なら自分で脱げるようになり、着席行動が良くなるなどの成果が見られたが、作業的内容の学習が苦手で集中力・持続力に欠ける、着替えにかなり時間がかかるといった問題点も残った。本年度も引き続きA子の成長を見つめ、特に生活する力をつけていきたいと考え、上記のテーマを設けて取り組み実践したことを述べてみたい。

1．児童の実態　A・O、S51・1・26生、11歳、女子

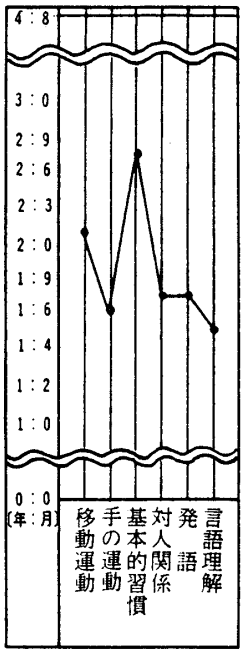
(1) **医学的所見**　難治性てんかん、精神発達遅滞　左目斜視

○5才3か月より現在までてんかん発作あり。現在服薬はしていない。4～5秒くらいの小発作で、目をつむりおなかがふくらんでかたくなり、じっとしてからほっとしておさまる。時には「うー」と声を発していることもある。眠気のある時、緊張がとけた時に起きやすい。

(2) **発達検査（右図）による実態**〔S62．12実施〕

○全般的に、1才8か月～2才くらいの発達段階にあると思われる。

○手の運動、言語面に遅れが目立つ。



〔遠城寺式・乳幼児分析的発達検査〕

(3) **一般的特性**

○身辺処理能力が不十分で、着替え等かなりの補助が必要である。

○語いが少なく、言葉の一部(特に語尾)を言うことが多い。(例：「あめ」)

○二語文による表現が出てきつつある。(例：「かーかん、えき」)

○目と手の共応が難しく、作業的な内容のものは苦手で持続力に欠ける。

○情緒表現が豊かでうれしい時手をたたいて喜ぶ。　○リズム感がよく、音楽が好きである。

2．62年度の取り組みの概要

(1) **研究テーマ**　『言葉をふやし、意欲的に生活や学習に取り組む態度を育てる』

——日常生活の動作を指導する中で、感覚・運動機能の向上をはかる——

(2) **指導仮説**

A子の場合、内言語はほとんど発語として表わされており、言葉によって行動がわいてくることも多い。意味のある言葉を増やすことは、すなわち内面の力、認知の力となり、ひいてはそれが〝わかって行動する力〟となる。その行動の支えとなるものは感覚・運動機能の向上であり、これは日常生活のあらゆる場面で養っていかなければならないと考える。そこで、次のような仮

説をたてて取り組みをした。

①語いの増加→認知の力　　②日常生活指導の動作、養・訓

⇩　　⇩

わかって行動　　技能の向上

⇩

意欲的に生活（学習）する態度が育つ

(3) 指導方針

ア、日常生活指導を中心に、生活単元学習、個別学習、合同学習の計4場面で取り組む。

イ、繰り返し学習による定着をはかる。

ウ、すべての生活の中で注視の力をねらい、手指の感覚訓練をして技能の向上を目ざす。

エ、教材、教具を工夫し、楽しんで学習できるようにする。

日常生活指導	生活単元学習	個別学習、養・訓	合同学習
○衣服の着脱 ・スナップどめ ・脱ぐ、着るの動作 ○食事の技能 ・パンの袋破り ・ストローさし ○係の仕事 ・カードかけ	○宿泊学習を通して ・生活する力をつける ○劇指導を通して ・言葉・動作による表現力をつける ○ぬり絵、はり絵 ・注視の力をつける ・手指の感覚・運動機能	○微細 ・積み木、玉さし、輪を通す ○粗大 ・音楽テープ ・階段昇降 ・マラソン	○模倣により学習態度、技能を身につける ○楽しく参加する ○合音 ・リズム感 ○合体 ・体力をつける

日常生活指導の衣服の着脱、食事指導、係の仕事など、どれをとっても個別学習や養・訓との関連が大である。しかし、A子は「～をしなければならない」といった特設場面に弱いので、生活全般（学習も含む）を通して感覚・運動機能を向上させるよう配慮し、上記の4場面の相互の関連をはかりながら総合的に取り組んでいくことにした。

3．実践例

(1) 衣服の着脱の指導を通して

スナップどめの指導過程を、

①両手をそえて一緒に押さえてもらい、指先に力を入れる感覚を覚える。

②スナップどうしを合わせてもらって、自分で力を入れてとめる。

③自分でスナップどうしを合わせてとめる。

の3段階に分けて考え、昨年より1年かけて①を指導、今年より②の段階に入っている。

〔スナップどめをしているA子〕

〈4月～5月の実態〉

●朝、教室に入っても着がえようとせず、カーペットの上にすわりこんだまま。何度も促されてから脱衣かごを取りに行って着がえ始めた。下校時は指示されても動こうとせず、わざと寝そべってごろごろしている状態が続いた。

●「ぺっちん」と声をかけると一応ブラウスの両端をつかむが、「見て」の声かけをしても横を向き視線を合わせず。

（考察）

○ある程度の技能はあるが、それがまだ定着していない。
○スナップどめができないことが帰りの着がえの意欲を欠く原因になっている。

⇨

※スナップどめの技能が向上すれば見通しを持って着がえができ、意欲もわくのではないか。

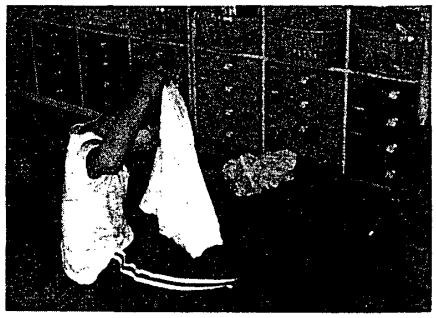
A子は学校に泊まることが好きである。日々、衣服の着脱の指導を続けていくとともに、この宿泊学習を契機として、①自分で服を脱ぐこと、②ボタンやスナップのない衣服を着ること、③スナップどめをすること、の3点に力を入れて技能の定着をはかることにした。

〈7月〉　家庭に連絡してボタンをスナップに付けかえてもらい、事前学習で何度か練習。
補助すると、1個（上から2番目）自分で力を入れてとめることができた。

〈夏休み〉宿泊で使ったブラウスを家庭で着て、毎日スナップどめを継続。

〈10月〉　朝の学校での着がえ、家に帰って私服への着がえがスムーズになった。

〈12月〉　朝教室に入ると、自分でさっさと制服を脱ぎ、表裏・前後の間違いはあるものの、とにかく一人で体操服に着がえている姿がしばしば見られるようになった。



（一人で着がえようとしているA子）

（学校）

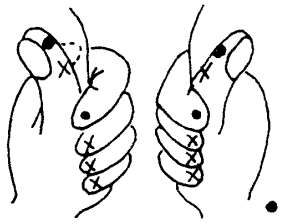
・朝教室に入るとさっさと服を脱いでいました。脱いだ服も自分でかごの中に入れていましたし、この頃自主的に着がえようとする姿が見られだしました（11/20）。
・朝担任が朝会に出ている間に一人で着がえていました。服が裏でしたが、全部一人でしたのにびっくり（12/5）。
・朝、下足場の所ですわり込みかけましたが指示で教室へ。その後は自分で着がえました（ブラウスの上に体操服を着ていましたが）。この頃さっさとしているので、他の先生もびっくりです（12/8）。

（家庭）

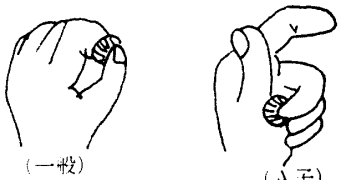
・着脱の件、先日も書いたように家でも自分の方から脱いだり着たりすることが多くなりました。風呂に入る時は上衣（丸首）も自分で脱ぐようにさせているとその要領がわかって上手に脱げだしました。着がえも畳に置くと自分で取って着ています（11/20）。
・どうしても一人ですると前後が間違うのですが…。これまでもどこかへ行こうと言うとすぐ服を持って来て着がえかけたり、靴下を取って来たりということはありました。学校でそれが出始めたとはうれしいです（12/5）。

生活ノートより

冬休みも母親より「パジャマにスナップを2個つけて続けさせてみようと思う。」という申し出があり、さらに継続してできそうである。日常生活指導の面は家庭との連携が大切であり、この点A子の母親の協力が得られて幸いだった。朝の着がえは上述のように自主的に、見通しを持って行えるようになったが、帰りはまださっさと取りかかれないことが多い。手の運動が未熟で、指先も右図のような実態であるので、別に指先訓練をして分化をはかっていく必要性を感じている。音楽などで意欲づけをしながら、スナップどめの技能の定着をはかっていきたい。



〈指先の力の入り方〉　● 一般　X A子



（一般）　（A子）
〈物をつまむ時〉

(2) 食事指導を通して

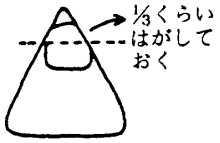
給食時のパンの袋破りは指先の力をつけるのに絶好の機会である。と同時にストローを牛乳パックの穴に通すことは注視の力をつける良い機会であると考えて取り組んだ。

〈パンの袋破り〉

指導の段階	教師の手立て	A子の様子
①自分で破ろうとする態度を育てる。 ②指先がすべらないよう、おしぼりを常に準備させる。 ③袋の端の方を両手の指先で持ってあけるよう補助（→指示）する。 ④何度か失敗した時は、袋を2cmくらい破いて渡し、後は自分で破かせる。	○「はい」と手渡しても「自分で破いてごらん」と戻し、しばらく放置。 ○指先で持つ箇所を示し、タイミングを知らせるため、「きゅっ」といった声かけをして励ます。 ○穴の開けてある箇所を示し、指先をつっこんで破るようにさせる。	○まず自分で何度か破こうと挑戦し、できない時に手渡すようになった。 ○袋の端を持って指先をたてるような格好をし、少しは力を入れられた。 ○3回に1回は自分で袋を破れるようになり、「できた」と喜んでいた。

〈ストローさし〉

○牛乳パックのふたの紙を⅓くらいおこしておき、自分ではがすようにさせる。
○穴がふさがっている時は、ストローを差し込みやすいように穴をあけておく。



⇩

○一生懸命視線を合わせ、パックをぐるぐるまわしながらストローをさそうとしていた。
○上記の補助のもとでなら、ほとんど一人でさせるようになった。

楽しく食事ということを前提としつつ今後も続けていきたい。

(3) 係の仕事の指導を通して（個別学習と関連して）

4月より週1回の個別の時間に、ごみ袋を持ってごみ捨てに行き、階段の昇り降りをして走って教室にかえってくるということをしている。袋を持つ指先にだいぶ力が入るようになった。階段昇降はまだ恐がり、手すりを持たないとなかなか足が進まず、手をついてあがることもよくある。目で確かめながらさらに経験をつませたい。また、この一連のコースを長くする、セクションを多く設けるといったことも今後工夫していきたい。

毎朝の係の仕事として、目線より高い（約25cm）位置にあるくぎに、健康観察カードをかけることを11月より始めた。注視の力をつけ、目と手の共応をはかることをねらい、続けている。「見て」の声かけでちらっと視線をはしらせるが、すぐ目を伏せるので何度もやり直しが必要だが、仕事だよの声かけに、喜んで取り組んでいる。

(4) 劇指導を通して、語いの増加をはかる。

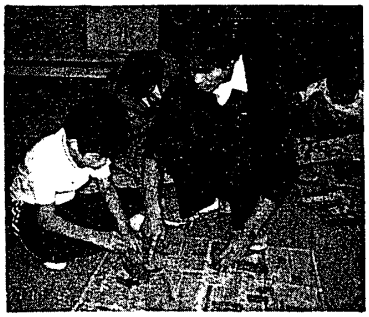
とにかく音楽テープ・学習テープを繰り返しきくことが好きである。学校でも家庭でもパンプキンを操作しながら何度も同じ場面をきき、登場人物になりきって台詞を言ったり、歌の一部を歌ったりしている。テンポのいい台詞を取り入れ、表現する力を伸ばしたいと考えた。

○大きなかぶ……「よいしょ、よいしょ」「ばんざーい」「そうだ、ちびちゃんだ」「おーい、ちびちゃーん」
○さるとかに……「がんばってね」「どうしたの」「わるいやつだ、やっつけよう」「エイエイオー」
○わらしべ長者……「かーかん、あれ、ほしいなー」「トントン」「ヒヒーン」「あれ？」「いこう、いこう」

劇の練習や本番で、上記のような台詞の一部を言ったり、少しではあるが動作で表現したりできた。生活に生かせるものもあるので、今後も続けたい。

(5) 合同学習との関連

合同学習では常に担任が側につき、指示・補助を行った。七夕発表会の合同かざり作りではぬり絵グループに属し、「ほし」「すいか」と言葉を発しながらぬったが、担任の手立てのまずさで(直前に学級でぬり絵をした)、持続して取り組ませることができなかった。学習発表会の劇の大道具作りで、かきの木にはけで色をぬった。視線が合わず、新聞や手にぬることも多かったが、励ましを受けて最後まで仕上げることができた。クリスマス会の飾り作りでは、初めてはり絵グループに入った。好きな分野であるので入れ物からのりをどんどん出して、手も紙ものりだらけにしながら持続して取り組んだ。今後もクラス学習で視線を合わせる指導を続け、合同学習で皆と一緒にすることを楽しみながら持続して作業ができるようにしていきたい。



4．考察と今後の課題

衣服の着脱、食事の技能に上達が見られ、ある程度、生活に意欲的に取り組むようになったと感じている。朝の着替えが早くなったことによって、一日の生活の流れが良くなり、指示をきいてさっさと行動することができだした。また、食べたいという欲求を原動力にして、してもらって食べるのではなく、自分で何とかして食べるという様子が見られだした。

今後は、一日の生活の流れのパターン化をさらにはかり、見通しをもって行動できるようにしていきたいと考える。大好きな音楽を多く取り入れ、A子が楽しみながら手指の感覚機能や運動機能が高めていけるようにするとともに、日常生活のいろいろな動作に必要な技能を高め、その定着をはかりたい。A子は疲れると指示が通りにくくなるので、体力をつけて体調の維持につとめ、補助を少なくして、指示を理解し、それに従って行動できるようにしていきたいと考える。